

平成30年度 地域ケア推進実務者連絡協議会議事要約

日時：平成31年3月11日（月）

午後2時～午後4時

場所：輝きプラザきらら

国際交流室

時 刻 発言者	内 容
事務局 司会	<p>それでは定刻となりましたので、平成30年度地域ケア推進実務者連絡協議会を開催致します。</p> <p>まず、本日のスケジュールについて説明させていただきます。</p> <p>お手元に置かせていただいております、次第に沿いまして、本日の案件は、</p> <p>1点目としましては、認知症施策について、認知症初期集中支援チーム検討部会の報告させていただきます。</p> <p>2点目には、第1層協議体の報告について</p> <p>3点目には、在宅医療・介護連携の推進について、多職種連携研究会の報告させていただきます。</p> <p>4点目、参加者や団体からの報告や意見交換の後、終了予定としています。</p>
事務局 司会	<p>それでは、早速ですが、案件1にうつります。</p> <p>認知症初期集中支援チーム検討部会の報告をいたします。</p>
事務局	<p>案件1 認知症初期集中支援チーム検討部会の報告</p> <p>配付資料： 認知症初期集中支援チーム検討部会議事要約 認知症初期集中支援チーム検討部会次第・配付資料</p> <p>認知症初期集中支援チーム検討部会について、議事要約をお配りしておりますが、一部を抜粋して伝えさせていただきます。</p> <p>前提としまして、平成30年度途中から、従前の医療介護の支援が入っていない初期のケースのみでなく、医療や介護の支援が入っている場合にも認知症の症状により日常生活に支障をきたしている事例についても発動対象としました。</p> <p>また、その場合に主治医との連携は必要不可欠ですので、市から主治医への発動連絡票とチームから主治医への情報提供書を作成し、活用をはじめました。</p> <p>まずはじめに1つ目の案件として、地域包括支援センター13か所の社会福祉士で構成される社会福祉士部会において、初期集中支援チームについて検討しておりますオレンジ検討チームより取組報告がありました。</p> <p>医師会を通じた医師会会員の医師への周知・初期集中支援チームと協働し民生委員への周知活動に取り組んだほか、発動ケースの検証・それを踏まえたセンター内の再周知、また初期集中支援チーム2チームとの合同の意見交換会の実施等を行っております。</p> <p>また、地域包括支援センターでは、来年度から社会福祉士のみでなく主任ケアマネジャーと保健師管理者も含めたグループで認知症施策について検討していくよう体制を変</p>

	<p>える予定としております。</p> <p>2つ目の案件として平成30年度の発動ケースについて共有を行いました。4ケースあるうちの2ケースについては、対象者を拡大した後のケースですので主治医もおり介護サービスも活用されているケースです。どちらもまだ、発動中のケースですが、発動連絡票や情報提供書を活用してチームと主治医との連携をしております。</p> <p>3つ目の案件として、枚方市における認知症施策の一覧表を最新の内容に改訂して報告させていただきました。</p> <p>そのなかで、認知症高齢者等家族支援事業についてお伝えさせていただきますが、一般社団法人が作っているシステムで、番号管理されているステッカーに対し、事前に親族等の電話番号を登録しておきます。ステッカーを衣類や持ち物に貼っておき、実際に本人が行方不明になられた際に、発見者がステッカーに記載のフリーダイヤルに電話をかけることで、双方の個人情報保護した状態で家族へ連絡がつくというシステムです。市では、要支援要介護認定をお持ちで徘徊のおそれのある高齢者の家族等に対し、利用料と初期費用の5,600円の助成を平成31年1月より開始しております。</p> <p>認知症初期集中支援チーム検討部会については以上です。</p>
事務局 司会	この報告について、ご意見等はございますか。
事務局 司会	それでは、続きまして、案件2. 第1層協議体の報告について説明させていただきます。
事務局	<p>案件2 第1層協議体の報告について</p> <p>配布資料：資料②-1 第1層協議体（第1回目）議事要約 資料②-2 第1層協議体（第1回目）次第・配付資料 資料②-3 第1層協議体（第2回目）議事要約 資料②-4 第1層協議体（第2回目）次第・配付資料</p> <p>第一層協議体に関しましては、配付資料をご確認ください。</p> <p>今回、初めて取り組みました、わたしのまちの元気づくり、地域づくりプロジェクト取り組み発表会の報告をさせていただきます。</p> <p>関西医科大学の講堂を借用し、平成30年11月16日に実施いたしました。</p> <p>開催の目的といたしましては、校区の取組みの共有と意見交換の場を設け、本プロジェクトの更なる発展を目的としております。</p> <p>当日は194人が来場され、盛況の中で終了することができました。内容としては、2部制で行い、第1部は、枚二校区、香陽校区、明倫校区の3つの校区にプロジェクトの取組みを発表していただきました。</p> <p>（校区の取り組み発表まとめ）</p> <p>枚二校区は、カフェ・ゲーム・体操の3つのプログラムがある新たな居場所「枚二みつば」の開設までの準備から現在の運営について。</p> <p>香陽校区はニーズ調査を行ったうえで、課題解決のための地域元気づくり教室の活用など様々な取組みについて。</p>

	<p>明倫校区は商店街ならではの強みを活かした取組み等について発表していただきました。</p> <p>第2部は、第1部の発表者5名と樟葉西校区コミュニティ協議会会長の計6名と来場者との意見交換を行いました。</p> <p>樟葉西校区コミュニティ協議会会長は、発表の感想について述べられ、運営のコツや地域の方とのかかわり方など第1部の発表者に質問されました。</p> <p>また、来場者からは「自分の校区はここに苦労しているが、どうされていますか。」といった質問もあり、時間いっぱい有意義な意見交換ができました。</p> <p>発表された校区は、活動の振り返りから今後の活動へのモチベーション向上に繋がり、来場された方にとっても、得たアイデアを持ち帰ることができたのではないかと感じております。</p> <p>以上で報告を終らせて頂きます。</p>
事務局 司会	<p>この報告について、ご意見等がございますか。</p> <p>それでは続きまして、案件3へうつります。</p>
事務局	<p>案件3 在宅医療・介護連携の推進について 配付資料：多職種連携研究会 実施内容一覧表 課題整理一覧表</p> <p>平成30年度多職種連携研究会について報告させていただきます。資料③-1内容一覧表の説明を地域包括ケア推進課より、資料③-2課題整理一覧表を地域包括支援センター主任ケアマネ部会より説明をいたします。</p> <p>多職種連携研究会は、日常生活圏域ごとに開催していくことで、地域の実情に即した課題の抽出や、積み上げ、振り返りを行うことを目的に、平成28年度より地域包括支援センターが事務局となり開催をして3年目となります。</p> <p>お手元に配付している「資料③-1多職種連携研究会実施内容一覧表」は、各包括が開催した多職種連携研究会の開催の意図や成果、参加人数を一覧にしたものです。研究会では、様々なテーマを介して、医療と介護の連携を目的に、それぞれの地域での課題を抽出し、各圏域レベルか市全域で取り組む課題かを整理しました。</p> <p>参加者数は昨年度と比較して570名から567名と、明後日に開催をする未開催分があるため、平成29年度とほぼ同様の参加といえます。再掲にある医療職の参加も大きな変化ありません。病院の相談員や退院支援・地域連携に従事する看護師の等、医療関係者の参加は35.4%になります。参加人数に大差はないものの、地域における多職種連携のスムーズさは向上していると実感できる圏域が増えています。</p> <p>テーマには「在宅看取り」「本人の意思決定とその支援」「認知症の支援」「入退院支援に視点を絞った連携」等様々になります。共通目的は多職種の視点の違いを知り、業務内容や役割、強みをお互いが理解をしたうえで、円滑な連携と対応力の向上にあります。</p> <p>次に、課題整理一覧表には、運営にあたって課題に感じたこと、また抽出された地域・連携の課題をまとめています。こちらは主任ケアマネ部会より報告をいたします。</p>

主任ケアマネ部会	<p>課題整理一覧表については主任ケアマネ部会より報告</p> <p>平成 30 年度に各包括支援センターで開催した多職種連携研究会の課題を運営上の課題と地域（連携）課題を主任ケアマネ部会にてまとめました。</p> <p>開催圏域ごとの運営上の課題について</p> <p>多職種連携研究会開催にあたり、主要団体の予定の把握が難しく、医療関係者と介護保険事業所職員の参加しやすい時間帯が異なり、多職種が参加しやすい日程調整の検討が必要と感じています。</p> <p>枚方市医師会から、多職種連携研究会の案内を圏域医療機関にファックスにて参加の呼びかけをしていただいておりますが、医師の参加人数は増えず、各圏域での開業医との連携強化が必要と思われます。</p> <p>また、開催を重ねることで参加者が増えてきた圏域では会場確保が難しくなってきました。</p> <p>地域（連携）課題について</p> <p>圏域の課題としては、では認知症の本人・家族を取り巻く連携を強化していくために、各職種の役割を理解し連携を密にしていく必要があります。</p> <p>また災害時の各職種の役割、要援護者を取り巻く連携方法の確認を行うことが、災害に強い地域づくりに必要と考えます。</p> <p>市全域に取り組む連携に必要な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症・虐待など気になる様子のある高齢者に対して早期支援につなげる仕組みづくりの整備が必要。 ・医療職、介護職ともに連携の必要性を認識しているが、お互いに求める情報や連携の仕方に温度差がある。入退院時の連携においても各職種によっては ADL や生活状況の捉え方や必要とする情報に違いがある。高齢者が在宅生活にスムーズに移行できるように大阪府が作成しているツールも含め、より活用レベルの高い連携方法の検討が必要。 ・医師会と連携し開業医の方に地域包括ケアシステムのご理解と地域包括支援センターの役割等の周知を図る必要がある。 <p>地域包括ケアシステム構築のため金融機関や企業の方にも、介護保険や認知症についての知識を持っていただく機会が必要。以上のように課題の整理を行いました。</p>
事務局	<p>多職種連携研究会には 3 師会からも多数参加いただいておりますが、今後の在り方等ご意見はいかがでしょうか。</p>
医師会	<p>在宅医療コーディネーター事業を受け、講演会等開催しています。在宅看取りについては、3 年前 20 万人都市との比較では下から 7 番目の低さであったが、看取り率は 13% になり少しづつ増えています。</p> <p>一般市民への啓蒙活動として、エンディングノートを作成し周知の講演会を行いました。認知症のシンポジウムと落語や、専門職の意思決定支援の研修会も企画しています。</p>

歯科医師会	<p>在宅訪問歯科診療も増えているが、保険点数の変更があり、請求が複雑化したため、勉強会を実施している。</p> <p>歯科に関することは、歯科医師会やかかりつけ歯科医へ気軽にご相談ください。</p>
薬剤師会	<p>研究会に参加をし、在宅医療への介入に役立っている。年々ケアマネより支援の依頼も増えています。</p> <p>研究会に参加する薬剤師が決まっているため、新規の参加者を増やしていきたい。</p>
事務局	<p>包括の取り組みに工夫があれば増えるのではなど、ご意見はどうでしょうか</p>
医師会	<p>個人的に声をかけてもいるが、忙しい時間帯であったり、在宅医療への興味関心のあ るなしもある。開業した若手医師に在宅医療の関心は広がっています。</p> <p>在宅医療コーディネーターが研究会の事務局会議に参加し、内容が充実している。内 容により参加の増減もあると思われます。</p>
事務局	<p>在宅医療コーディネーターの方より研究会の講評はいかがでしょう。</p>
医療コー ディネーター	<p>事務局会議に参加し、運営企画から携わりました。圏域ごとの創意工夫があって、事 務局では皆でワークする姿勢で、考えて作りあげる過程がありました。人生会議など興 味をひくテーマが必要になります。</p> <p>医師の参加が難しいとはあるが、すべての職種が参加する日程調整も難しいと思いま す。参加してメリットがある研究会になれば参加につながると思われます。</p>
事務局 司会	<p>それでは、続きまして、案件4 その他、参加者・団体からの報告・提案・要望事項 等としまして、枚方ソーシャルワーク研究会より「退院支援ネットワーク会議」の報告 をお願いします。</p>
枚方ソー シャルワ ーク研究 会	<p>案件4 その他 枚方ソーシャルワーク研究会より報告</p> <p>年3回、20か所以上の医療機関と会議を開催している。今年度より医師会からも参 加いただいています。第1回は在宅医療推進事業の取り組みを医師会より、第2回は PFN(Patient Flow Management)、入退院支援を運営面から考える取り組みを星ヶ丘 医療センターより、第3回は感染症の知識を保健所より講義いただき、有意義な時間と なっています。</p> <p>今年度は退院支援ネットワークで活動を行いました。次年度より入退院支援ネット ワーク会議へ発展させていきます。</p>
事務局 司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明について、ご質問等はございますか。</p>
医師会	<p>各病院で入退院支援のシステムが構築されていると感じています。退院支援カンファ レンスにかかりつけ医の参加が少ないと聞くため、医師の意識改革が必要と感じている。 医師会内の在宅医療介護委員と各地域包括支援センターの協力医に対し、さらなる地域 包括支援センターとの連携を考えていきます。</p>

事務局	星ヶ丘医療センターより共通サマリーについてご提案をお願いします。
星ヶ丘医療センター	<p>介護支援専門員連絡協議会を通じてアンケートを依頼し集計を行いました。アンケート集計については資料をご覧ください。</p> <p>きっかけは、退院時サマリーを提示しているにも関わらず、ケアマネからの問い合わせが多いため、退院サマリーの見直しに着目しました。在院に日数の減、高齢化率の上昇により、連携の質の維持が重要といえます。連携のひとつのツールとして退院サマリーに着目しました。</p> <p>保険医療記録共有サービスを動かすうえで、国としてデータ者を求められる中に看護サマリーの項目が追加されます。看護の用語は標準マスターということで、電子カルテ用語を使用すると推奨されています。用語の統一も図りたいと考えています。市内医療機関で看護サマリーも統一できたら目標の共通認識も早いのではないかと思います。退院支援ネットワーク会議に参加者の賛同はあるが、今後各病院の院長に承諾を得る段階です。</p> <p>時間が限られている中で、退院時カンファレンス等を通じて面を合わせたうえで共有していく事項も必要と思われます。</p>
介護支援専門員連絡協議会	<p>役員会で趣旨を確認し、アンケートの協力をしました。</p> <p>ケアマネは多岐にわたる情報を求めているが、これだけの情報を記入いただくことは困難なため、面を合わせた共有が必要と考えています。</p>
介護支援専門員連絡協議会	<p>研修会を開催した際、居宅療養管理指導でプラン作成があるが、作成の仕方がわからないと質問がありました。治療を依頼したつもりなのに、いつの間にか治療は終わって、歯科衛生士が訪問に来ている事例がありました。</p>
歯科医師会	<p>痛み等の主訴により訪問診療へ伺うと、継続的な口腔ケアが必要になる方が多い。治療が終了しても予防的に必要な方もいます。状態が落ち着いた場合は、衛生士が継続訪問することはあります。居宅療養管理指導の事後報告をケアマネへするよう徹底します。</p>
医師会	<p>在宅医療の保険点数に関する勉強会や意見書の講習会もしており、医師会も在宅医療に関する周知は図っています。</p> <p>往診等の医師に関する相談は、地域包括支援センターの担当協力医をおいているので、地域包括支援センターへ連絡いただくと、担当協力医と対応ができるよう体制をとっています。</p>
事務局	<p>実務者の連絡会ということで、他の団体への質問や、活動報告等はいかがですか。</p>

ソーシャル ワーク研究 会	<p>この会議にあげられた「課題整理」が発端で、退院時のシステムが必要である課題を持ち帰り、枚方市病院協会の協力を得ながら主催している退院支援ネットワーク会議で投げかけをさせてもらった。星ヶ丘医療センターが退院時のシステムについての課題を抽出されていて、マッチングがそこでできた。結果、今回の星ヶ丘医療センターから提案となっています。</p> <p>市がこの課題を把握していることが非常に重要で、様々なネットワークを活用したことが、ひとつのツール作成につながっている。これは、この会議の大きな成功体験としてみなさんと共有しておきたい。</p> <p>一方で、膨大な資料を当日見ても論議はなかなかできない。整理した課題の優先順位をこの会議の場でつけていくとか、職域でできうることはなにかを検討するなど、これだけの先生方が集まっているこの会議をより強化し活用するために、事前に事務局での準備も必要になるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>この会議の有効活用についてご意見をいただきましたが、市で検討するには課題が大きいため、地域包括支援センターの橋渡しも含めて、持ち帰りをいたします。</p>
事務局	<p>居住系の団体から報告等いかがですか。</p>
施設長会	<p>施設長会の活動についてですが、広域的な特養と地域密着型特養の20か所のうち17か所の施設長で横のつながりを取っています。今年度は災害時のライフライン確保について取り上げ、情報共有の在り方や、保存食等、市と施設の役割について協議を行いました。</p> <p>また福祉避難所について市と協定を結んでいるが、その運営について検討をしています。</p> <p>介護職員の人材確保に苦心しています。</p>
グループホ ーム連絡協 議会	<p>市内34か所のうち29か所の登録があります。</p> <p>認知症介護に特化した施設になるため、地域の住民から介護について相談を受けれる体制を持っています。</p> <p>認知症サポーター養成講座を、働いている世代に、ハローワークとタイアップし行っています。</p> <p>災害の非難についてグループホーム同士で協力しあえるよう検討しています。</p>
事務局	<p>災害時の対応について今年度の共通テーマであったようです。</p> <p>在宅医療の取り組みについて、保健所からお願いします。</p>
保健企画課	<p>医療法に基づき、市内25病院へ立ち入り調査を行っています。在宅医療へ円滑に移行するための課題の把握をし、在宅医療の推進へつなげていきたいと考えます。</p>
保健予防課	<p>難病グループのとりくみとしては、在宅医療を進めていくための会議体や講演会を実施しています。神経系難病の方はADLの低下もあり、生活上の課題も多くあるため、多職種で連携をしています。</p>

地域包括支援センター	<p>多職種連携研究会の積み上げは行っているが、参加メンバーの固定や、医療職介護職が共通になるテーマの選定など、課題はあります。</p> <p>この会議を踏まえ、主任ケアマネ部会でさらに検討を進めていきます。</p>
介護支援専門員連絡協議会	<p>資料にある訪問介護事業所アンケートについて説明をうかがいたい。</p> <p>総合事業に移行して大きく変化したであろう、訪問介護事業所とサービス事業所に変化について報告をお願いします。</p>
訪問介護	<p>訪問介護事業所のアンケートは、ヘルパー事業所の実態について聞いています。</p> <p>職員の平均年齢が上がっている。常勤で運営をしている事業所は多くはない。</p> <p>数年後に同様のサービスが提供できるのか。人材が不足している実態が見えてきた。</p> <p>総合事業は、単価設定が合わない。アンケートの結果は以上になります。</p>
サービス連絡協議会	<p>総合事業については介護予防通所事業同様に提供しているため、大きな混乱はありません。</p>
事務局	<p>介護保険制度は変更が著しく、それぞれの専門性は磨いていく必要があると思われます。</p>
医師会	<p>次年度夏ごろに、資源集の作成の原稿を依頼します。協力をお願いします。</p>
事務局	<p>他に参加者・団体からの報告・提案・要望等がございますか。</p> <p>これもちまして、平成30年度地域ケア推進実務者連絡協議会を終了いたします。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>